

*前期比：D I・季節調整済

景況

今期の業況判断DI値は-36と前期の予想DI値を10ポイント上回り、実績に比べほぼ横ばいに推移する結果となりました。売上、収益は後退し、資金繰りは横ばいで推移しました。設備投資については、機械設備の更改を中心に前期に比べ5ポイント減少し、23%の実施となりました。

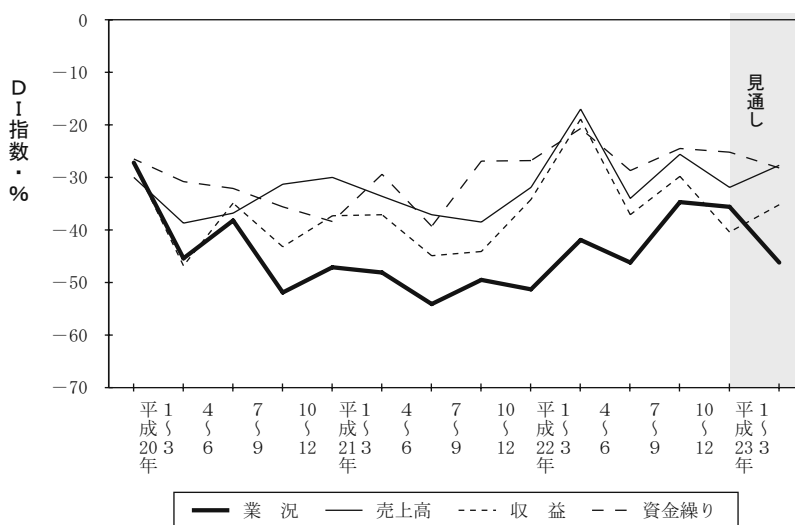
来期の予想業況判断DI値は-46と今期より10ポイント後退すると予想しており、売上、収益は改善、資金繰りは後退すると予想しています。設備投資については、今期に比べ2ポイント減少し、21%の実施と予想しています。

調査員のコメント

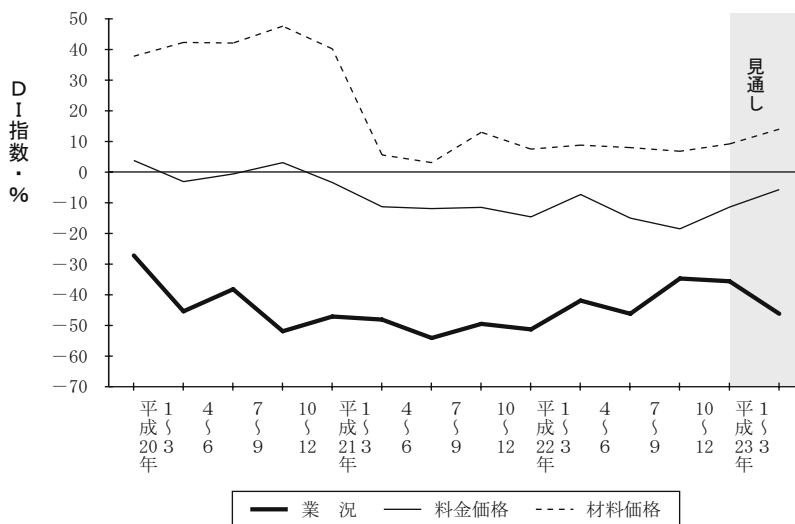
■不景気の中、ビル管理部門の売上げは頭打ちの状態。新たに取組んでいる事業に対し、今後、事業比率を高めていく予定である。
(建物管理業)

■ETC割引の効果もあり、売上・収益とも順調に推移している。
(インターチェンジ運営業)

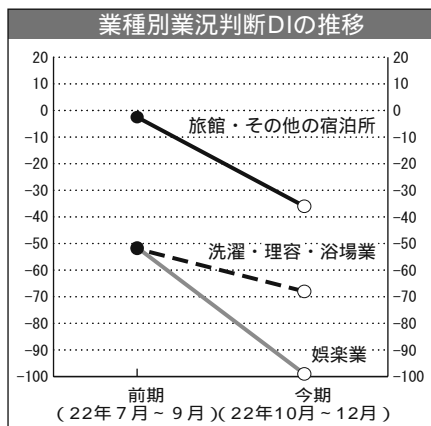
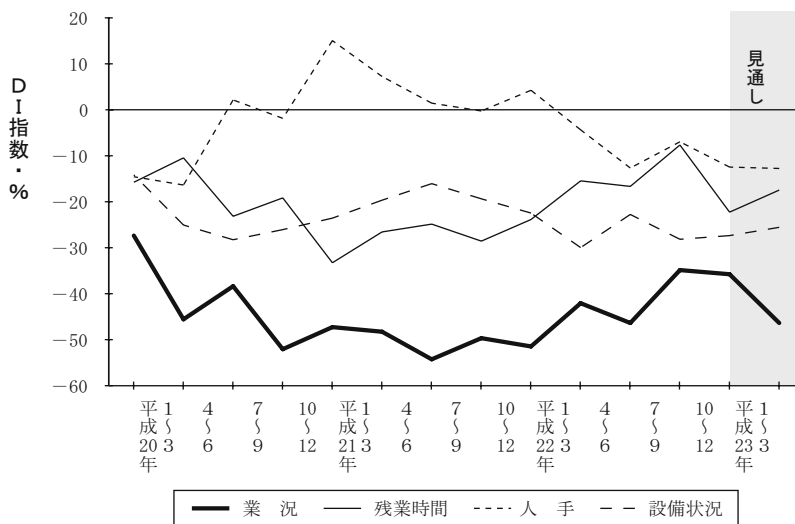
景況の推移



主な指標の動き



残業、人手、設備状況



経営上の問題点		
1位	売上の停滞・減少(1)	64%
2位	同業者間の競争の激化(2)	28%
3位	利幅の縮小(3)	25%

当面の重点経営施策		
1位	経費を節減する(1)	64%
2位	販路を広げる(2)	46%
3位	教育訓練を強化する(3)	23%

*()は前回順位